

肺がん 適切な時期に早期の手術が可能です 画像を3Dシミュレーションで解析し経過観察

肺がん手術は早期の場合、小さな創で小さく肺を切除する低侵襲（ていしんしゅう）が望ましい。湘南東部総合病院では、CTスキャンの画像を解析し、3次元シミュレーションによる胸腔鏡下区域切除手術を行います。大貫恭正医師のお話をうかがいました。

自覚症状で見つけにくい

「一般に自覚症状で発見される肺がんの7〜8割は進行がんで、X線による検査でも発見肺がんの半数以上をI期にするのは難しい状況です。一方CT検査では7割以上がI期で発見されています（日本CT

検査学会の調査）。

しかし、ごく小さな陰影や薄い陰影では、がんであるのかそうでないのか判りにくく、少し経過観察、様子を見ることが必要な場合もあります。小さい、薄い陰影がその間に、徐々に大きくなったり、濃くなったりすればがんである可

能性が非常に高くなります。

通常の肺がん手術では、術前に気管支鏡検査やCTを使用して体外から針を刺し、組織をとって肺がんであることを確認するのが普通です。しかし、診断侵襲が少ない胸腔鏡下区域切除で診断と治療を兼ねる方法が可能となりました。

徐々に大きくなれば...

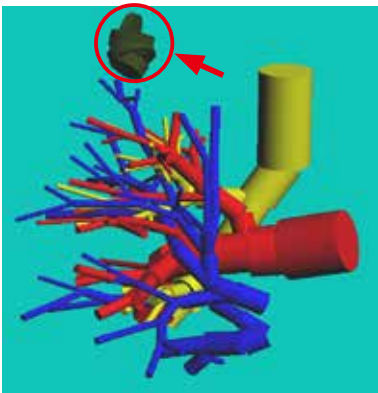
今回、ご紹介するAさんの場合、これといった自覚症状はありませんでした。たまたま行った健康診断の胸部CTで、怪しい小さな薄い陰影が見つかりました。年に1回の経過観察を4年間続けると、5mmの陰影は2cmに拡大し、肺がん（早期腺癌）の疑いは非常に強まりました。肺がんの手術は肺葉単位

の切除が基本で、その場合は肺機能の低下が多く入院は長めです。しかし、Aさんはこの段階で、胸腔鏡下の区域切除ができ、右肺全体の1/10を切除するだけです。入院期間も肺機能の低下も少なくて済みました。

やはり、がんは早期発見、早期治療が大切です。私も湘南東部総合病院の呼吸器外科ではCTスキャンの3次元解析を行って、手術をシミュレーションし、小さな創で肺を小さく切除する手術を行っています。お気軽に呼吸器外科をお訪ねください。（取材協力 湘南東部総合病院 0467-83-9111）

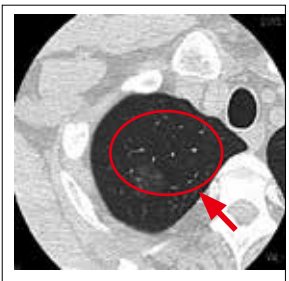


大貫 恭正（おおぬき たかまさ）
湘南東部総合病院 呼吸器外科部長
日本外科学会認定医・指導医 呼吸器外科
専門医・指導医 日本胸部外科学会認定医・
指導医 呼吸器専門医 東京女子医科大学
名誉教授



患者Aさんの肺
手術直前（56歳）の3Dシミュレーション
赤は動脈。青は静脈。黄色い管が気管と気管支。中央上の方にある黒い塊ががん。まだ初期で小さい。

患者Aさんの肺
4年前（52歳の頃）のCT画像。この段階では、まだ影が小さすぎてガンかどうかかわからない。CTの画像から3Dシミュレーションを作成し、経過観察を続ける。



定年後も胃の健診を

胃がんは日本人に多い病気です。がんの性質によりませんが、早期に発見すれば、余命を確保できます。湘南東部総合病院の消化器外科、守田誠恵医師にお話をうかがいました。

「胃がんは、日本人の国民病です。亡くなられる方は減っていますが、患者様の数はそう変わっていません。早めに見つかりやすく、治りやすくなっているのです。自治体検診のレントゲン

検査で疑わしかった場合や、人間ドックでは、胃の内視鏡・胃カメラで検査を行います。胃カメラはどんな小さくなり、性能も上がっています。小さながんなら、検査の時点で取りきつてしまいます。

胃がんの方の余命は伸びていて、がんの性質にもよりますが、早めに見つけて治療を行えばQOL（生活の質）を、よい状態で長い間保つことができます。

治療は、抗がん剤、放射線治療、外科手術の組み合わせ、または単独で行いま

すが、手術は低侵襲（ていしんしゅう）化が進んでいて、以前より小さい範囲で胃を切除し、入院の期間も短くなっていて、早めの退院と社会復帰が可能となっています。

こわいのは、定年退職後の男女です。65歳を過ぎたら、胃に限らず、がんの発症は増えるのですが、お勤

めを辞めたり働き方がかわり、収入も減ったりして健診の受診率が落ちてしまっているのです。胃がんに限らず、病気は早期発見と早期の治療、経過観察が重要です。自治体の検診などを有効活用しましょう。」
（取材協力 湘南東部総合病院 0467-83-9111）



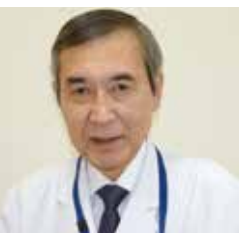
守田 誠恵（もりた せいえ）
湘南東部総合病院 【消化器外科】
東京医科大学卒
日本消化器病学会専門医 日本内科学会
認定内科医 日本がん治療認定医 抗菌化学療法認定医

抗がん剤と放射線今はがんだけを「やっつけます」

抗がん剤治療と放射線治療の進歩で、がん患者さんの余命は伸び、治療の副作用は減っています。湘南東部総合病院の副院長・新海哲医師のお話をうかがいました。

「がんの治療薬は、がんの場所やステージによって違います。以前の抗がん剤は、がんでない細胞もやっつけてしまうというデメリットがありました。最近の薬物療法は分子標的治療薬といってターゲットを絞るようになってきました。これはがん細胞の遺伝子検査、特に遺伝子変異の有無の検査の進歩により次々とターゲットとする遺伝子変異がわかってきてお

ります。ペバシズマブ（アバスタチン）という薬は、抗体薬



新海 哲 (しんかい てつ)
東部総合病院副院長【がん
治療センター長】
日本内科学会認定内科医
/指導医、日本臨床腫瘍学
会暫定指導医、日本教育
会認定医、米国臨床腫瘍
学会

(モノクローナル抗体)と
いう種類です。がん細胞の
増殖に関わるタンパク質の
働きを選択的に抑えて、が
ん細胞に栄養を与える新し
い血管の形成を抑えるので
す。新しい血管が出来なけ
れば、がんには血液から供
給される栄養が絶たれてし
まいます。がん細胞を兵糧
攻めにするのです。様々な
分子標的治療薬が開発され
臨床で使われています。

薬全般において、耐性と
いう問題があり、ガン細胞
の方は薬に耐えるような性
質を徐々に獲得していま

す。現在、分子標的薬を含
めた薬全般には、耐性の克
服が課題となっています。

従来の抗がん剤と違い、
最近の薬物療法はがん細胞
だけを標的にするので、副
作用がなくなつたわけでは
ありませんが、副作用がお
こる部分が変わり以前の薬
よりは軽くなつていると考
えていいでしょう。

また現在、最も注目され
ているのは、従来の免疫力
を高める免疫療法と異な
り、免疫を抑制する部分、
すなわち免疫チェックポイ
ントと呼ばれる部分を標的
とし、結果的に免疫を活性
化する新しい免疫治療で
す。悪性黒色腫（メラノ
ーマ）や肺がんで成果が上
がっております。今後、他
のがん種にも使われていく
でしょうし、新たな免疫療

法剤も開発されつつありま
す。患者さんの余命も伸び
てきています。

放射線治療も放射線の種
類が変わりエックス線、ガ
ンマ線による光子線から陽
子線、重粒子線による粒子
線が拡がってきており、が
ん組織だけを集中的に治療
するようになりました。た
とえば、かつては副鼻腔の
がんの治療で失明のおそれ
がありました。今は失明
せずに副鼻腔のがんだけを
放射線で治療できます。

また、腰椎のがん患者さ
んでは従来はがんの周りの
神経の細胞までやっつけて
しまい、患者さんが歩けな
くなる恐れがありました
が、今はがんだけに放射線
をあてるのが可能です。
(取材協力 湘南東部総合
病院 0467-83-
9111)

患者様の心身の負担を少なく

○：手術でも治療でも、患「襲」（ていしんしゅう）の増しているんですよ」と、櫻
者様お一人お一人の病状や 方向に医療は進歩を続けて 井先生。「患者様のためなの
持病などにあわせて、でき います。

この「人」に聞く



櫻井 嘉彦（さくらい よしひこ）

湘南東部総合病院 外科部長・副院長

【消化器がん治療、一般外科、鏡視下手術など】 日
本外科学会指導医・専門医 日本消化器病学会指導医・
専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器外科
学会指導医・専門医

るのが気がかりです」。

○：「胃がんでも、大腸がん 療方法もそう。医師に大切
でも、盲腸（虫垂炎）でも、なのは、最新の動向から遅
あらゆる手術で患者様の負担 れないよう、学会や研修会
は減っています。盲腸の手術 などへの参加を怠らないこ
なら、今は水着になってもわ とです」。

からなくらいの傷しか残り
ません」。

○：「湘南東部総合病院
は、慶應義塾大学などか
ら、慶應義塾大学などか
らの研修医も受け入れ、
後進の育成にも力を入れ
ことではありませんが、腹
腔鏡など、内視鏡を用いた
手術は、患者様のご負担の
少ない低侵襲の方向を目指
ましいのですが、多くの
若者に外科医のやりがい
を伝えていきたいと思っ
ています」。

○：「低侵襲の治療は、の
こる傷が小さいだけではあ
りません。手術後の痛みは
少ないですし、退院や社会
復帰も早くなります。医師
にとつては、患部を精緻に
診ることができ、より丁寧
な手術が可能になっていま
す」。

○：「お休みの日は、海辺に
行き、投げ釣りでリフレッ
シュされています」。

○：「医療機器は日進月歩

ふえる傾向にあり、身近な病気の一つです

うつ症状、うつ病

身体の症状が先に出ることもあります

うつ病などの気分障害は、ストレスの多い現代社会では増える傾向にあります。うつの症状は、日本人100人あたり、約3〜7人は生涯のうちで一度は経験すると推計されています(うつの定義によって推計値には幅があります)。

意外に身近な「うつ」について、どんなことに気をつけたらよいのか、湘南東部総合病院の精神科・野口佳耶医師のお話をうかがいました。

誰よりもやさしく

「誰でもなりやすいのが『うつ状態』や『うつ病』です。かつては、まじめな人がなりやすい、頑張り人がなりやすいと言われてきましたが、最近はそうでもありません。

表(「うつサイン」に)	他の病気が原因でうつの症状が出ることもあります。
挙げるような状態が2週間以上続いた場合は、精神科などを受診した方がよいでしょう。内科や、かかりつけ医でも構いません。	内科やかかりつけ医に紹介してもらい、精神科の専門医に慎重に診てもらいましょう。
うつ状態が続いている場合でも、うつ病が原因とは限りません。適応障害など	本人より先に、家族や職場の同僚らが『最近、ちよつとおかしいな』と気づく場合

うつのサイン (資料：厚生労働省など)

自覚症状

- ・抑うつ気分(憂うつ、気分が重い)
 - ・何をしても楽しくない、何にも興味がわかない
 - ・疲れているのに眠れない、一日中ねむい、いつもよりかなり早く目覚める
 - ・寝過ぎる
 - ・イライラして、何かにせき立てられているようで落ち着かない
 - ・悪いことをしたように感じて自分を責める、自分には価値がないと感じる
 - ・思考力が落ちる
 - ・死にたくなる
- 1日中続く、2週間以上続く場合は受診しましょう

家族や同僚らが見ている気になる

- ・表情が暗い
 - ・涙もろくなった
 - ・反応が遅い
 - ・落ち着かない
 - ・飲酒量が増える
- 周りの人が見えて、そう感じたら、本人はうつで苦しんでいるかもしれません。内科で構いませんので受診を勧めましょう。できれば受診に同行しましょう。

身体が先に悲鳴を上げることもあります。

- ・食欲がない
 - ・逆に食べすぎる
 - ・体がだるい
 - ・疲れやすい
 - ・性欲がない
 - ・頭痛や肩こり
 - ・動悸
 - ・胃の不快感
 - ・便秘がち、または下痢ぎみ
 - ・めまい
 - ・口が渇く
- 上記などの症状に加えて、悩みや気分の落ち込みなどがある場合には、内科の受診時に申し出てください。

合もあります。精神科を受診してもらうのが良いのですが、まずは内科でも構いません。また、悩みが、身体の不具合の原因だと、なかなか気づかない方も少なくありません。可能であれば一緒に受診し、それが出来ない場合は、『体の具合だけでなく気分も落ち込みがちなんですよね』などと、受診前にさりげなく指摘してあげましょう。

まずは休息を取る

「うつ状態やうつ病で、真っ先にしなければならぬのは休養をとること。がんや心臓病などの治療中に患者さんがうつ状態になることもあります。悩みや気分の落ち込みなども、主治医に率直に打ち明けましょう。

うつ状態、うつ病などの治療には、薬による治療と、認知行動療法をはじめとする心理療法があり、患者さんお一人一人にあわせて、医師は組み合わせで行います。早めに専門医に相談しましょう。(取材協力 湘南東部総合病院 0467-83-9111)

通院がづらくなったら訪問診療で

湘南東部総合病院

高齢になり、病院への通院が難しくなった方は、現在、医師の訪問診療を受けることができます。湘南東部総合病院で訪問診療を担当している松原顕峻内科医にお話をうかがいました。



松原 顕峻 (まつばら けんしゅん)
湘南東部総合病院 【内科、訪問診療】

「医療は受ける場所に よって今、①外来医療（外来診療・病院や診療所の外来に通って受ける）②入院医療（入院して受ける）③

在宅医療（居宅などで受ける）の三つに別れています。在宅医療は、医師が患者の居宅（自宅、親戚の家、老人ホーム、グループホー

ムなど）に出向いて行う診療で、往診や訪問診療があります。

医師がそのつど患者の求めに応じて出向く診療が「往診（予定されていない）」で、あらかじめ医師が診療の計画を立て、患者の同意を得て、定期的に（たとえば1週間に1回、あるいは2週間に1回など）患者の居宅に出向いて診療するものを「訪問診療」として区別しています。回数や間隔は患者様それぞれの状態に合わせて設定され、介護とも連携しています。訪問診療を受けている患者様が、訪問予定日でない日に具合が悪くなったときに医師に来てもらった場合は、往診になります。湘南

東部総合病院は、24時間365日対応している救急車も常駐していて、急患の患者様には迅速な対応も可能になっています。

訪問診療や往診などを上手に組み合わせれば、家にながら診療を継続して受けることができます。訪問診療は、通院が困難な方、家族の介護負担を軽減させたいと考える方、病院や施設を退院して自宅療養を望む方などが対象です。

病院など医療機関は、通院が困難な方を見極めて在宅医療を行っています。くわしくは主治医、またはケアマネさんにご相談ください。（取材協力 湘南東部総合病院 0467-839111）